



平成20年第1回定例会で施政方針を述べる石黒市長

## 平成20年度 施政方針

平成20年度は、総合計画に掲げる施策や行政改革の強力な推進等「実行」の年と考えており、職員一丸となって、効率的かつ効果的な行財政運営に努めながら、「住み良いまち 仙北市」の実現に取り組みます。

### ◇ 政策の基本方針 ◇

依然として人口の減少、少子高齢化が進んでおり、加えて観光客の動向も横ばいの状態です。地域経済活性化に向け、定住対策、テンミリオン計画、産業連携の3つのプロジェクトに強力に取り組み、創意工夫をこらした施策の展開を進めます。

合併協議により設置した地域審議会は、4月から第2期の委員を選任し、引き続き各地域の声を市政に反映させ、市民と行政の連携を図ります。

行政評価制度を導入し、各種事業の効果や必要性を検証したうえで、予算編成に的確に反映できるシステムの構築を図ります。

「民間でできるものは民間へ」の基本方針のもと、老人福祉施設の民営化について、平成24年度までの5年間で推進期間として、諸条件が整次第、順次民営化を進めます。

分庁舎方式の解消と本庁舎整備については、平成19年度の検討結果を踏まえ、具体的な方向性を見い出すとともに、2つの市立病院をはじめとする本市の医療体制のあり方について、基本的な方向付けを明らかにしていきます。

平成19年9月の集中豪雨により、西木地区を中心に大きな被害が発生し、災害復旧に全力を挙げて取り組みました。今回の災害の経過を教訓として、緊急の事態に対応できる、きめ細かな危機管理体制を構築していきます。

### ◇ 重点事業と予算案の概要 ◇

平成20年度予算一般会計予算の総額は、181億3千7百万円で、昨年度と比較して0.3%、4千9百万円の増となっていますが、繰上償還金1億8百36万円を除くと、総額180億2千8百64万円で、5千9百36万円の減、率にして0.3%のマイナス予算となっています。

歳入は、市税が地域経済の低迷等に伴う市民税の減少や、たばこ税、入湯税の落ち込み等により平成19年度より7千7百54万4千円下回ります。

歳出の主な事業は、定住対策等の重点プロジェクト関連事業として、総額約1千3百60万円、汚泥再生処理センター建設事業費6億3千99万5千円、神代小学校建設事業及び解体事業費5億9千5百43万8千円、地方道路整備臨時交付金事業費2億3千5百3万円、まちづくり交付金事業費2億5千7百万円、市道整備事業費2億1千8百70万円、角館統合小学校建設事業費1億8千3百22万1千円等です。

### ◇ 各部等の事業の概要 ◇

#### 【総務部関係】

##### 〔組織・機構の改編〕

総務部内に「行政改革推進室」を設置するとともに、病院経営改革を推進するための専任組織として、医師確保対策室の体制を強化し、「病院経営改革推進室」を設置します。なお、国体事務局は、事務の終了により廃止しました。

市直営の4つの老人福祉施設及び9つの保育園の民営化の推進を図るため、福祉事務所内に「福祉施設民営化推進室」を設置するとともに、「包括支援センター」を福祉事務所に編入し、高齢者福祉の一元化を図ります。

農政施策と土地改良関係施策を円滑に推進するため、農政課と農村整備課を統合し「農林課」を設置するほか、地域センターの総合窓口課と地域振興課を統合し、地域

振興課の観光班を観光課の所管に移すとともに、生保内財産区、田沢財産区に関する業務を田沢湖地域センターに移管し、業務体制の強化を図ります。

### 〔重点プロジェクトの推進〕

定住応援情報のホームページを充実させ、空き家情報バンク等の情報提供に努めるとともに、定住相談窓口を設けて、定住に関する総合的な相談に応じるほか、定住促進奨励金制度の制定、企業誘致の情報提供等をお願いするふるさとサポーター制度の創設、在京ふるさと会員へのふるさと情報の発送等を計画しています。

テンミリオン計画及び産業連携については、所管の課でそれぞれ事業を展開していくほか、隠れた観光資源やブランド情報を調査するとともに、農産物情報データベースを開設し、観光と他産業の連携を図っていきます。

### 〔秋田内陸線の運行〕

可能な限り乗車促進運動に取り組んでいくことを基本として、関係地域住民の乗車促進、観光面での活用等、内陸線の果たす役割を十分に活かし、乗車人員の増加を目指します。それでもなお存続のためには、運営面での改善策が不可欠で、さまざまな角度からの研究、検討が必要であり、県や北秋田市等の関係自治体及び関係機関と協議を重ねていきます。

### 〔市民バス〕

田沢湖市民バスは、利用の少ない土曜日の運休、要望の多い大杉沢地区への路線延長に加え、1日の便数を1便増とします。角館地区のスマイルバスは、統合小学校の通学に配慮した菅沢地区への路線延長、利用の少ない地区への一部乗り入れの廃止、運行経路の効率化等を予定しています。

試験運行中の白岩地区のデマンド型乗合タクシーは、4月から本格運行を開始し、平日運行を基本として、地域要望を取り入れた一部路線の変更、停留所の増設等により、利便性の向上を図ります。

### 〔地域医療改革〕

国では、公立病院を開設している自治体に対し、病院経営の効率化、再編・ネットワーク化等の抜本的な見直しを求める「公立病院改革プラン」を平成20年度中に策定するよう義務付けています。

このため、新たに、有識者を含めた策定委員会を設置し、協議を進めるとともに、市の地域医療改革会議等の議論の中で、改革プラン策定と併せて、本市の医療体制のあり方について具体的な方向性を示していきます。

## 【市民福祉部関係】

### 〔交通安全・防犯対策〕

交通安全・防犯対策については、関係機関や交通・防犯組織団体等と緊密な連携を図り、交通安全啓発活動の充実や犯罪の未然防止に努めます。

### 〔消防・防災〕

平成20年4月より一本化された仙北市消防団の円滑な活動推進と体制整備に努めます。

「危機管理計画」を策定し、災害応急体制の強化とともに、災害時備蓄品等の整備や災害時応援協定の推進を図るとともに、桧木内川、玉川のハザードマップを作成し、防災意識の高揚に努めます。

### 〔生活環境整備・環境保全センター〕

昨今の異常気象の原因と考えられる地球温暖化対策のため、「地球温暖化対策推進実行計画」の策定を進めます。

「汚泥再生処理センター」建設事業を継続して実施し、平成21年度からの稼働に向け努力します。

各施設の適切な維持管理に努めるとともに、市民の協力をいただきながら、ごみの減量化に努めます。

### 〔後期高齢者医療制度・国民健康保険〕

平成20年4月から、全県で統一された後期高齢者医療制度が新しくはじまりました。

後期高齢者医療制度の創設に伴い、国民健康保険制度が変更され、課税関係では、新たな項目として、後期高齢者支援金等賦課額が加わります。また、保健指導や健康管理面では、特定検診制度が実施されます。

### 〔保健事業〕

大腸がん予防事業として現在実施している便潜血検査に加え、より有効性の大きい大腸内視鏡検査を、昭和大学横浜市北部病院や市立角館総合病院等と共同で実施し、大腸がんの予防や死亡率の減少に取り組めます。

### 〔高齢者福祉〕

大曲仙北広域市町村圏組合の「第4期介護保険事業計画」と連携し、「第4期仙北市高齢者保健福祉計画」（平成21年度から23年度まで）の策定を行います。

### 〔児童福祉〕

児童手当等経済面の支援をはじめ、子育て支援センター、一時保育、3歳未満児保育等の取り組みを継続して子育て支援を進めるとともに、児童の安全を確保するため、「要保護児童対策地域協議会」との連携を図ります。